

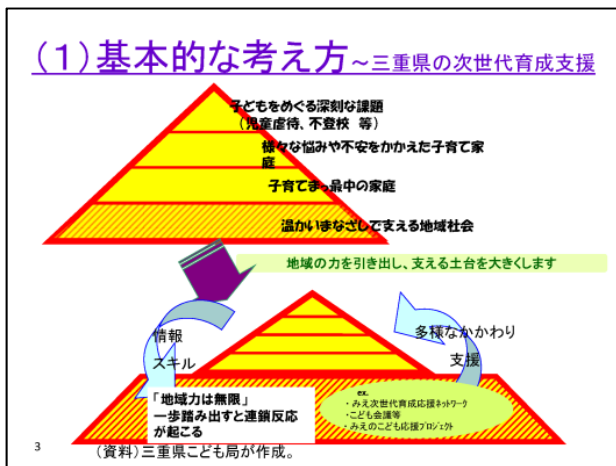
## 自治体分科会

### ■ 分科会のねらい

コーディネーター

(株)東し経営研究所 研究部長

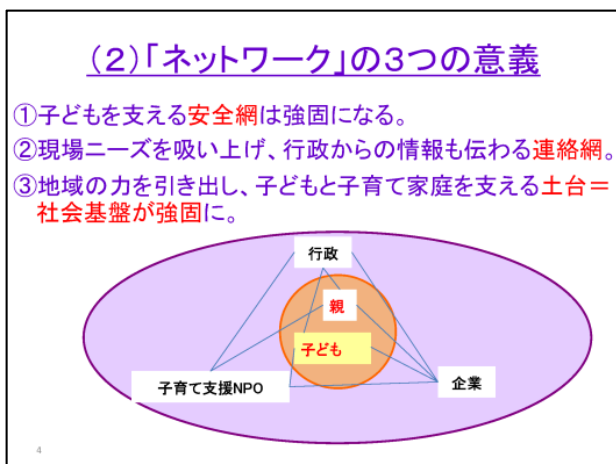
渥美 由喜 氏



### ■ 基本的な考え方～三重県の次世代育成支援

(図: 三重県こども局作成)

- ・今、行政は、ピラミッドの一番上の児童虐待や不登校といった子どもをめぐる深刻な課題に非常にエネルギーを取られていて、その手前の様々な悩みを抱えている家庭や子育て真っ最中の家庭にはなかなかエネルギーを割けない現状にある。
- ・基本的に、底辺の地域の力を引き出してこの支える土台を大きくすると、そのまま企業・NPO など多様な主体が子育て家庭や子どもたちに関わる。また行政は情報を持っていて子育てに関するスキルを提供することで地域力がどんどん高まっていくという連鎖を起こす。
- ・『「地域力は無限」一歩踏み出すと連鎖反応が起きる」という三重県の考えは、この自治体分科会の基本的な考え方でもある。本日の自治体分科会では、行政だけではなく、企業やNPOを巻き込んで、地域力を高めていくにはどうしたらよいかを様々な事例を共有し、それぞれの自治体の苦労点や工夫点を情報共有する。



### ■ 「ネットワーク」の3つの意義

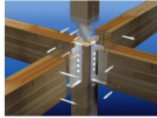
- ・本日のテーマ「企業・NPO・自治体のネットワーク連携」には3つの意義がある。3者が子どもと子育て家庭を中心にネットワークを組むことによって、
- ①子どもを支える安全網は強固になる。
- ②子育てをめぐる多様なニーズや地域ニーズといった現場のニーズを吸い上げ、行政からの情報も伝わる連絡網。
- ③地域の力を引き出し、子どもと子育て家庭を支える土台=社会基盤が強固になる。

### (3) 子どもを真ん中に置いた「地域活性化策」

#### ◎子はかすがい



親のみならず、血縁・地縁でネットワークが広がる 強烈な「連結力」



All Rights Reserved Copyright(C)CFRI 2009

#### ■子どもを真ん中に置いた「地域活性化策」

- ・子育て支援をめぐるネットワークは、子どもを真ん中に置いた地域活性化策だと考える。
- ・「子はかすがい」。強烈な連結力をもつ子どもを中心に置くことによって、血縁関係だけではなく地域のネットワークが広がり、地域が強くなっていく。

### (4) 多様な主体による「ネットワーク」

- ・「環境」政策、「少子化」対策、ワークライフバランスの類似性
- ・共通しているのは、「持続可能性」

自然環境	未来の大人である子どもからの借りもの(ネイティブアメリカンの諺) 持続可能なシステム作り
地域環境	持続可能な地域社会
職場環境	持続可能な働き方・企業

All Rights Reserved Copyright(C)CFRI 2009

#### ■多様な主体による「ネットワーク」

- ・子育て支援(「少子化」対策)に近い施策に、「環境」と「ワークライフバランス」があるが、共通するキーワードは持続可能性である。
- ・子供たちが増える＝未来の労働者、消費者が増えること。子どもたちが増えていくような地域にしないと、企業としての持続性が損なわれかねない。
- ・地域で子どもを真ん中に置いたネットワークが広がり、地域の持続可能性を高めるということが一番根底にある。